

教育センターだより

子どもの「素敵」に出会う

南砺市教育長 松本 謙一

校長先生から「松本先生は、本当にこの流れで研究授業を行うのか？」つまり『やめたほうがいいのではないかと助言をされたのですが、「自分はやる」と言い張って実践に踏み切った授業です。単元名は『ぼくにおまかせ、おこのみやき』、2年生の生活科の事例です。

この単元を設定した理由は、まず、子どもが本気になる単元であること。食を対象にするだけでなく、お好み焼きだから、何を作ってもいいのです。家族や自分の好みを生かして工夫する余地もいっぱいです。好きなお好み焼きを自分で作って、最後にお父さんお母さん（家族）を呼んで自分で料理して招待する・・・



そのために、家で試しに作ってみたり、本やコンピュータだけでなくお好み焼き屋さんへ行って情報を得たりする、そういう勉強です。「授業参観の日にこういう授業をするよ。」と言ったら、子どもたちはびっくりしながらも喜んで活動を始めました。

単元を展開する中で、異変が起きました。毎日毎日、家でお好み焼きを作っていたI君は、研究会当日のその日、何とスーパーのでっかいレジ袋の中に、粉からボウル、フライパンまで材料や道具を全部入れて学校へ持ってきたのです。「先生、僕、もう家でお好み焼き、作れなくなった。毎朝毎晩作っとったら、お母さんもお姉ちゃんももうお好み焼き、食べたくない。だから、学校の勉強だから学校へ道具も材料も全部持っていけって言われた。それで、これらを持ってきた。」と言うのです。

さあ、これを教材にして、公開研究会での授業をするかどうか。これに対して、初め校長先生はダメだと言われたのです。校長先生は、まず「I君はそれでいいけれど、他のみんなからI君だけ認められないということになったら、この子の学習はどうなる？君は、この後の学習をI君に保障できるか？」と問われました。「大丈夫。1年半も担任してきた。きっと大丈夫。」としどろもどろに答える松本。「本当にできるのか。全員がだめって言ったら、松本先生にはどんな手立てがあるのですか。」と、校長先生。「最後の一手は・・・僕が泣く。子どもの前で泣くしかない。それでも何とかならないことはない。だからやらせてほしい・・・。」と、松本。ここまで校長先生に言われて、研究授業での授業実践に踏み切っているのだろうかと思いました。思うような展開にならなかつたら、本当に責任が取れるのだろうか・・・。「I君がいいのなら、次の日からみんな学校にお好み焼きを作りに来たらどうする。僕も、僕も、私も・・・」松本先生は将来の山王祭の香具師（やし）を育てるのか。何のための勉強か？この指摘に対してだけ、僕は自信がありました。もしうまくいったとしても、次の日から誰一人まねをしないはずだ・・・と確信していました。経験によるだけの『根拠のない自信』ですが・・・。

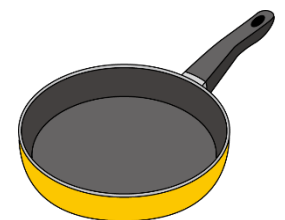
勇気を出して実際の授業でI君の話題を取り上げました。まあ、大変でした。実際にしたのは、次のような授業です。

「家では作れない。お姉ちゃんがだめだって言うもん。」

「僕、ダメだと思う。I君ばかり作るのは・・・」

「僕いい。その代わりに、I君、今日作るってことは、本番の時（I君だけ）

作らないんだね。本番も作るのだったらI君だけ2回になるからダメ。」子どもの平等意識はすごいですね。みんな同じ（平等）。どうしてもこの考えを変えようとしません。



「よし、じゃあ、I君の持ってきたもの、見よう。おっ、お前。こんなものまで持ってきたのか。」とたくさん持ってきた材料や道具を一つ一つみんなに見せました。「みんなここまで持ってきているんだけど、どうかな?」「ダメ、ダメ。ダメー。」「じゃあもう一回隣のひとと相談してごらん。『いいよ』という人、いないかな?」

一人もいないのですね。もう校長先生とのかけに負けたことになります。いよいよ教師である僕が泣くしかないかと……。 「お前達、本当にやっぱりI君が作るの、ダメか?」……。いよいよ泣かなければならないかなと思った時でした。ぐすんと泣いてくれた子どもがいたのです、僕の代わりに。

I君と近所に住み、よく遊んでいたN君です。「どうしたの?」と指名すると「僕、いいと思う。だってI君、可哀想だよ。」と泣きながら話します。そうしたらU君も、「俺も、一回ならいいと思えてきた」と言ったのです。「一回だけやぞ。」とみんなが確認しました。これが研究会の1時間目の45分間です。

休憩をはさんで、後半の2時間目はI君がみんなの前でお好み焼きを作る、周りでみんなが見ている、それだけの時間です。例えば、粉を2杯入れる。「うちのお母さん、2杯じゃなかった。1杯やった。」水をこれだけ入れる。また、「うちのお母さん、違うと言っていた。」「え、小麦粉なの?うちのお母さん、お好み焼き粉だったよ。」「……そんなことをわいわいがやがや言い合いながら、1時間が終わりました。でも、こんな授業でも学びはいっぱいありました。まず、みんなが認めて了解の上で作れたのです。うれしそうに目を輝かせるI君の調理する姿は、周りの子どもたちには輝いていたに違いありません。

その日の、帰りの会の一コマです。「今日、I君、作らしてもらってよかったね。」と僕が言い、他のみんなも「よかったね。」と言いました。「I君、今どんな気持ち?」などとちょっと皆からインタビューされていました。「I君、今日作らしてもらってどうでしたか?」この質問に対して、I君は何と言ったと思いますか?

なんと「まだちょっと満足でない。」と、言ったのです。全く想定外の反応でした。

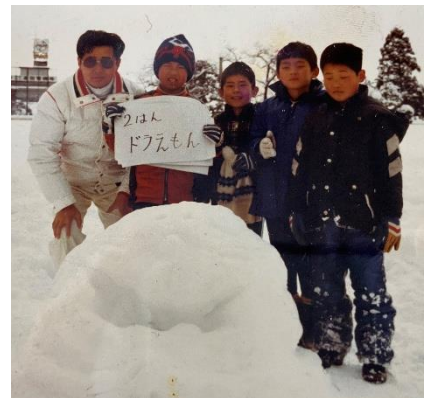
「何、I君、この半日、僕(松本)は誰のために苦勞したと思っているの。すべて君(I君)のためだったんだよ。それなのに、ちゃんと作れたのにまだ満足でないとはどういうことなの?」これは、その時私が心の中で思っていたことです。他の子どもみんな、僕と同じ気持ちに違いありません。周りのみんなの目は三角です。「I君、何が満足じゃないのですか!」子どもたちが口々につぶやきます。

すると、I君から次のような思いがけない返事が返ってきたのです。

「うん、みんなのおかげで、今日僕だけ作れた。だからこのお好み焼き、みんなに食べてほしい。」と……。みんな、目が三角だったのに、急に「そうかあ。(笑い)」と満面の笑みに急変したのです。これ、奇跡?驚きました。「こんなことまで考えられるI君だったのか。ああ、この授業をやってよかったな。」と、改めて思いました。

みんなで作った1個のお好み焼きを親指の爪ほどに分けて「いただきます。」「おいしい。おいしい。」と終わったのです。I君のようなやさしい子がいっぱい育ったらいいなと思えたのです。もちろん次の時間からは、誰一人フライパンを持ってくる子供はいませんでした。確認できたことは、いかにみんなが平等意識をもっているかということです。よほどのことがないとみんなと違ったことを認めることはできないと実感できたに違いありません。それが、そのことが自分とは異なる仲間を受け止めることの大切さ(多様性への寛容さ)とともに、全ての子どもにとっての大きな学びだったのではないのでしょうか。

子どもの「素敵」に出会う……。教師ならではの喜びです。



若かりし日の松本先生(左端)



授業力向上研修会(ステップアップ研修)

- 実施日 ①6月15日(水) 福野中 ②7月4日(月) 利賀小
③7月11日(月) 井波小 ④9月16日(金) つばき
⑤9月22日(木) 城端小 ⑥10月24日(月) 福野小
⑦11月14日(月) 城端小 ⑧11月15日(火) 福光中
⑨1月20日(金) 井波中 ⑩1月27日(金) 福野小
- 講師 南砺市教育委員会 松本教育長
- 参加者 7～9年次の先生方22名、当該学校の教職員 他
- 内容 事前・事後研修会と公開授業を通して、授業力向上を目指す



<参加者の感想より>

- ・集団で学ぶ意味について学んだ。友達のよさを感じたり互いの違いを認めたり、ときに感動し合ったりすることが集団で学ぶ意味である。教師と1対1で話すのではなく、一人の意見についてみんなの思いを聞いたり発言していない生徒の思いを取り上げたりする場面が大切である。このことを常に念頭に置いて授業をしていきたいと思った。
- ・協議会で授業について語り合うことは楽しいことだと学んだ。協議会も授業と同じように、自分とは違う先生の意見を聞くことで、新たな考え方や手立てを知ることができる機会である。松本教育長のコーディネートのもと、参加された先生方が生き生きと発言する姿も見られ、楽しく協議会に参加することができた。
- ・振り返りで、「〇〇さんの考えがすごいと思いました」など、友達の考えを聞いて、自分がどう考えたかを発言する子供が多かった。振り返るために、友達の話をしっかりと聞く意欲につながり、さらに、友達に褒めてもらうことが話す意欲につながったと考える。他にも、多くの手立てがあり、学級全体が楽しく学習に取り組んでいたことが印象的だった。安心して自分の考えを伝えることのできる学級づくりを私も目指していきたい。

ICT 活用講演会

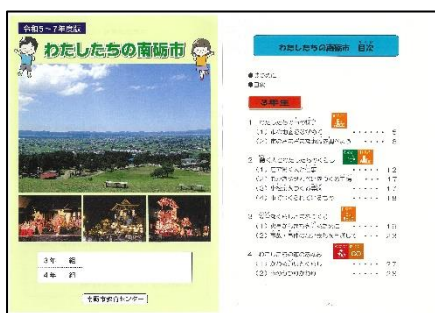
- 日時 令和4年11月16日(水) 15:00～16:30
- 会場 吉江中学校 視聴覚室
- 講師 富山大学大学院 准教授 長谷川 春生 先生
- 参加者 17名 市内小・中・義務教育学校 ICT推進委員 他
- 内容 「タブレット端末の利活用」

- ・小学校のプログラミング教育、中学校技術科の情報、高等学校の情報Ⅰの学習のつながりについて
- ・小学校での「情報モラル」や「プログラミング」の学習の重要性について



●調査研究委員会

事業名	活動内容	成果や課題
社会科資料 (小学校)	社会科資料「わたしたちの南砺市、地図」の改訂、印刷(令和5~7年使用)	・「カイコがつないだ南砺の産業」の企画展の内容をもとに、「養蚕」「織物」等の南砺市の産業のつながりをまとめた。【小中】
社会科資料 (中学校)	社会科資料「身近な地域の学習~地理編」の改訂、印刷(令和5~7年使用)	・南砺市が「SDGs 未来都市」に選定されたことをうけ、学習内容とのつながりが分かるようにSDGsマークを記載した【小】
体力づくり	新体力テストの調査協力、体力づくり対策推進について、取組を確認する	・体力・運動能力を高める効果的な指導法について研修し、啓発を図る。
ICT 推進	「ICT 活用講演会」の実施 「ICT 活用事例集②」の作成	・各学校にファイル1冊とPDFデータを配付。「Microsoft Teams」、「SKYMENU Cloud」を活用した実践例を参考にする。



「わたしたちの南砺市」



「身近な地域の学習」



「ICT活用事例集②」

●NYT道場(南砺ヤングティーチャー)

■ 第2回 令和4年11月22日(火) 18:00~ (48名参加)

- ・レクリエーション大会(ビーチボール)
- ・モザイク壁画の発表
- ・情報交換会(28名参加)

■ 第3回 令和5年1月20日(金) 17:30~ (44名参加)

- ・先輩から学ぶ講演会 講師 山下 透 先生(城端小)
- ・閉講式、情報交換会(28名参加)

実施した研修会は、感染対策をしっかりとって行うことができた。研修内容等が制限される中、6年次教員がアイデアを出し合いながら、積極的に企画運営に携わり、有意義な研修会を開催することができた。運営委員の希望で、2回情報交換会を実施した。若い世代の横のつながりを強化する取組として大変効果があった。別の学校、異校種の教員とも交流することができ、参加者からはとても好評だった。



今年度も、市教育センターの諸活動にご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。これからも、先生方のご要望を一層反映できるよう努めていきたいと思っております。さらなるご理解とご協力をお願いいたします。